

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300110		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム妙水苑		
所在地	青森県八戸市大字妙字分校43		
自己評価作成日	平成24年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の余暇の充実に特に力を入れている。歌や発声練習等の豊富なレクリエーション、気分転換の散歩等を利用者の要望に応じて行ったり、家事の手伝いを職員と利用者と一緒に、心身の活性化を図っている。その他、苑内の装飾物を月1回の頻度で利用者で作成し、利用者だけでなく、家族にも季節感を楽しんでもらえるよう積極的に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりと利用者の個別性を重視し、その人らしい生活が送れるよう理念を掲げ、周知に努めている。各ユニットに理念を掲示し、業務前のミーティング時に唱和を行い、全職員への理念の周知、共有化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに積極的に参加し、介護相談コーナーを設ける等して地域交流を進めている。広報誌を事業所入口に設置したり、町内に配布する等、事業所の取り組みをPRしている。見学、認知症に関する相談、その他、実習生、ボランティア等の受け入れを実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、認知症に関する相談、その他、実習生、ボランティア等の受け入れを実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告、情報交換を密に行っている。また、メンバーの意見を積極的に取り入れ、サービス向上に活かしている。外部評価や自己評価を公表している。2ヶ月おきに運営推進会議を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者に参加していただき、運営や現場の実情等について話し合い、指導を受けて結果を報告し、サービスの質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は、家族等に説明を十分に行い、同意を得ている。また、身体拘束ケアプランを作成し、月1回のカンファレンスを行い、身体拘束は必要最低限とし、解除に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、全職員の理解に努めている。高齢者虐待防止マニュアルを作成して周知徹底を行い、虐待の防止に取り組んでいる。また、管理者は職員のケア提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修を開催し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について全職員が学ぶ機会を持ち、理解を深める取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族に十分に説明を行っている。また、契約を改定する際にも説明を行い、同意を得ている。退居の際は不安なく退居できるよう、退居先への情報提供を速やかに行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者を決めており、運営推進会議等でメンバー他、ご家族より意見をもらっている。そこで出された意見や不満等を運営に反映させ、改善に積極的に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、ケアに反映し、より良い運営を行えるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業を極力少なくし、無理のないシフト調整を行っている。研修に自発的に参加できるように希望をとり、シフト調整を行い、職員のスキルアップとモチベーションの向上に努めている。また、自己管理シートで職員の実績を把握し、適切に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講の機会を作り、受講後は報告会や伝達講習を行い、職員のスキルアップへ活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸市内のグループホーム協議会やネットワークに加入し、同業者との交流、連携が確保されている。 交換研修を行い、施設のサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の希望者には事前にホームの見学や面談等を行い、利用者、家族の意向をじっくりと聞き、困り事や不安を受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の希望者には事前にホームの見学や面談等を行い、利用者、家族の意向をじっくりと聞き、困り事や不安を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを確認し、それに合わせた柔軟な対応を行っている。対応ができない場合等は他のサービスを紹介する等して、総合的な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の知恵や経験を重んじ、野菜作りや収穫、料理等を共に楽しんでいる。 七夕祭りの作品や壁紙等を共に作り、完成する喜びを分かち合えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り、情報交換を行い、家族の意向を積極的に取り入れている。 年に数回イベント参加の場を設け、共に過ごす時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話の傾聴に努め、馴染みの人や場所の思い出を大切にしよう努めている。 家族の協力で自宅等の本人にとっての馴染みの場所に外出する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、座席等に配慮している。 レクリエーション等で全員が楽しく、仲良く過ごせるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡等があれば相談や問い合わせに親切、丁寧に対応し、支援を行い、アフターケアにも力を入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の訴えをじっくりと聴き、一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めている。困難な場合は家族と相談しながら、本人の気持ちに配慮した支援を行えるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を基に、生活歴や馴染みの暮らしを個別にファイルに作成しており、全職員が把握しやすいように整理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで利用者がより良い暮らしができるように、全職員の意見、アイデア、気付きを話し合い、個別性を重視した介護計画を作成し、ケアに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアの実践、日々の暮らしの様子、気づき、工夫を個別に記録し、情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービス(医療連携)、自主サービス(移送・外出支援)を組み合わせ、要望に応じて柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行っている。苑イベントではボランティアや民生委員にも参加の協力を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。定期的な訪問診察の他、急変時にも必要に応じて医療機関との連携の下、24時間医療サポートで適切な医療が図れるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携体制が整っており、日常の健康管理について、24時間いつでも相談できるようになっている。また、状態に応じてアドバイスを受け、より良いケアにつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者と家族の意向に十分に配慮しながら、協力病院の連携室と密に情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に重度化、ターミナルケアに関する方針について説明を行い、書面にて同意を得ている。 日常の健康管理や急変時の対応について、利用者、家族、医療機関と話し合い、全員で方針の共有ができるように努めている。また、重度化に備えてマニュアルを作成し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの受講を全職員で行い、急変時に備えている。 緊急時対応マニュアルを作成、掲示し、急変時に備え、職員がいつでも確認できる状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて数日分の食料、飲料水を用意している。また、消防署の指導の下、避難訓練を実施している他、通報訓練等も定期的に行い、災害時に冷静に対応できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法については個人情報委員会が主体となり、全職員に対して指導がなされており、理解、周知に取り組んでいる。利用者一人ひとりを尊重し、常識的かつ適切な呼び掛けや声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、個々の力量に応じて自己決定できるよう声掛けを行っている。困難な場合は家族とも十分に話し合い、納得を得た上で支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣等の個別性に配慮し、利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性を尊重し、声掛けを行いながら、その人らしい身だしなみができるように支援している。また、理容・美容についても利用者の希望を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、楽しく食事が摂れる環境づくりを行っている。また、苑の畑の収穫物を一緒に味わい、楽しみを共有している。食後の後片付けを利用者と一緒に行い、役割を持って、意欲的に生活が送れるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録、把握し、栄養バランスを管理栄養士から指導や助言が得られる体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔内の洗浄、義歯の手入れ等、能力に応じた支援を行っている。また、義歯が合わない等、必要に応じて歯科受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に応じ、必要な場合は声掛けにてトイレ誘導を行っている。また、使用するオムツ、パッド等についても排泄パターンに応じて個別に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取の声掛けをすると共に、排便をやすくするための工夫を行っている。必要に応じて医師、看護師、管理栄養士へ相談し、助言を得ている。また、勉強会の開催等により、職員の知識の向上に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の気分に合わせて入浴を実施している。入浴拒否時は無理に勧めず、時間、曜日を変える等して実施している。利用者の状態に応じて、安心して入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に馴染みの家具、装飾品を設置する等、安心できる環境づくりに努めている。また、不安訴え時は傾聴し、安眠できるよう声掛けを行っている。利用者の状態、体調に応じ、日中に臥床時間を設ける等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用に対して、飲み忘れや誤薬が無いように見守りや介助を行っている。内服確認チェック表を活用し、薬の準備は職員2名で確認しながら、厳重に管理している。薬の変更があった場合は申し送りをし、全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に応じたレクリエーションの他、定期的に外出・イベントを実施している。また、気分転換が図れるよう散歩を行ったり、洗濯物干しや食器の片付け等を職員と一緒にいき、役割を持って有意義に生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩の付き添いの他、外食イベントを開催し、家族にも参加を募り、利用者と家族と一緒に過ごせる機会を作っている。家族から自宅での外泊等の相談があった際は親身に対応し、本人、家族の不安解消に努めながら支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力量に応じ、家族の希望にも配慮しながら金銭管理を行っている。家族面会時には出納帳の残金確認のサインもらい、金銭管理の徹底を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙を利用者に渡すだけでなく、職員と一緒に読む等の支援を行っている。利用者が電話をかける際には付き添い、必要時は電話番号を押す等の介助を行いながら、気軽に電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビ、CD、新聞雑誌等を設置し、いつでも楽しめるようにしている。季節に応じた装飾物、掲示物の作成に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室となっており、居室と共用ホールを自由に行き来できる。利用者同士で団欒できるスペースがあり、ソファや椅子を設置して、自由に使用することができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族とも相談しながら、使い慣れた物を持って来ていただいている。写真や風景画等も貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を設置している。居室に付けてもわからない時は居室に誘導したり、声掛けを行っている。居室内は本人の馴染みの物を設置している。		